



満足という幸福感

校長 今野 敏晴

先月、「戸塚区青少年指導員だより 第69号」を送っていただきました。その中で「幸福って何だと思えますか？」という題の記事が目にとまりました。

『「お金持ちになって長生きしたい」とか「行きたい学校に行きたい」という夢や願望の実現は幸福を感じるひとつです。しかし、人間は比較が好きなので、つい周囲との比較の中で考えがちになります。それなら周りとのヨコの比較ではなく、今の自分と未来の自分とのタテの比較で夢や願望を考えてみましょう。皆と違っていい、今の自分が立てた自己実現目標をこの先の自分が達成できるか。そんな子ども自身の夢や願望を親は応援し励ましましょう。今日ダメだったらまた明日と、昨日の自分に負けないよう少しでも前に進むがんばりが幸福感につながります。

満足という幸福感は、人と比べるものではなく、自分の身の丈にあった夢や願望が満たされるかどうか大切な尺度のひとつかもしれません。(一部抜粋)』

本校の学校教育目標は、「豊かに学び 認め合い 咲かせよう 笑顔と満足の花」です。その中にある満足とは「**自己有用感・自己肯定感が高まった状態**」「**夢や目標をもち生き方を追求する中で得られる達成感**」「**仲間とつながる中で得られる充実感**」と考えています。満足と幸福の関係や違いなどは一般的にはどう捉えられているのか、気になったので調べてみると次のような記事を見つけました。

- 満足は、他人と比較したときに達すべき水準を満たしたときに感じるもの。
- ◇幸福は、自分で決めたことを成すことができ、初めて得られるもの。
- 「満足」は物質的欲求を満たしたときに起きる現象。美味しい食事ができて腹が満たされて満足など。つまり、自己中心的な概念の中にあるのが「満足」。
- ◇「幸福」は、他者との関わりがあったときに、より明確に意識される感覚。利他的な概念の中にあるのが「幸福」。
「人から愛される」「人に必要とされる」「人の役に立つ」「人からほめられる」ことなど。
- 『満足』とは与えるもの。給料、休暇、役職などの『待遇』。読んで字の如く『待っていて遭遇するもの』。
- ◇『幸福』とは感じるもの。達成感、やり甲斐、成長、社会貢献など主体的に動くことによって感じる事。

一般的に「満足」は物理的な欲求と考えられることも多いようです。しかし、**本校の考える「満足」とは、物を増やすことによる「満足」ではなく、心を満たすことによる「幸福」です。**そう考えると前述の「満足という幸福感」につながってくるように感じました。

5月29日のチュンチュンスポーツフェスティバルに向けて「笑顔と満足の花」を咲かせられるよう子どもたちはがんばっています。スポフェスで大切なのは、友達とのかかわりの中で「一人ひとりが最善をつくす」ことです。演技にしても一人ひとりがもてる力を発揮して一人の意欲が二人、三人、さらに学級、学年全体の演技に広がります。子ども達一人ひとりが自分の役割を自覚し、呼吸を合わせるとき、演技は素晴らしいものになります。徒競走でも力を出し切る大切さを助言しています。そして、最善をつくしている友達を応援することも。当日もきっとたくさんの笑顔と満足の花を咲かせてくれることでしょう。

ご家庭でも、周りと比べることなく、子ども達の夢や目標を目指す中での成長や友達とのつながりの深まりを捉えて励ましていただければ幸いですようご協力お願いいたします。